

全力で駆け抜けた秋



校門前に掲げられたゆりフェスの看板

2学期に入ってから、特別支援学校総合体育大会、ゆり支援フェスティバル、その間に高等部3年生は現場実習など、大きなイベント等が目白押しでした。この間、それぞれが目標に向かってチャレンジする日々が続きました。

総合体育大会では、バスケットボール、フライングディスク、グラウンド・ゴルフ、サッカー、ピン倒しボール、ネオホッケー、ポッチャの各種目で健闘し、たくさんの児童生徒が入賞しました。夏休み前から、暑い中一生懸命練習し、時には悩みながらもくじけず技を磨いてきました。当日、学校とは違う大きな会場で、他校の児童生徒もいる中で、ひるまずに堂々と戦い抜き、それだけでも見ていてうれしくなりました。個々に目を向けると、昨年との違いもよく見え、1年間の成長もよく分かります。成績には表れない収穫もたくさんありました。

ゆり支援フェスティバルは、日頃の学習からのつながりがよく分かる発表内容でした。テーマが「全力で楽しんでいいねが!笑顔あふれるゆりフェス」でしたが、まさにそのとおり。若干緊張しながらも、ステージ上でそれぞれの見せ場でしっかりアピールした小学部低学年、岩手県への修学旅行で学んだこととして群読やわんこそば、さんさ踊りを堂々と披露した高学年、精度の高い合奏や歌、踊りを全身で表現した中学部、それぞれの学年の学習活動を楽しく寸劇仕立てにし、今後につながる強い意志を表した高等部1年・2年、そして名前の由来を込めた歌や、息の合った渾身の太鼓の演技で18年間の感謝を伝えた高等部3年。それぞれがたくさんの思いを形にしようとして心を込めて観客に伝えようとする姿は、心を揺さぶられるものがありました。外は寒い日でしたが、笑顔と涙のあふれる温かさいっぱいゆりフェスになりました。

終わった後の子どもたちの表情を見ると、安堵感とやりきった感でしょうか、はじけんばかりの笑顔があちらこちらにあふれていました。“ハレ”の日は、ほんの一瞬ですが、そこに至るまでの心の揺れや努力は一人一人の血となり肉となり、自信やさらに挑戦するエネルギーになっていくことでしょう。頼もしいかぎりです。

それにしても、そんな成長する姿を間近で見られるのは、とても幸せなことだとつくづく感じています。こうして私たち周囲の大人も、子どもたちから学び、心を豊かにしてもらい、育ててもらっているのでしょう。感謝の一言に尽きます。今年もゆりの丘の秋は“大豊作”です。



畑や校庭はすっかり秋の装いです

R6.11月 校長 近藤千晴

